

2 キャンパス・アメニティ等

1) キャンパス・アメニティの形成

(B群:キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況)

【現状の説明】 キャンパス・アメニティは、そこで活動する学生や教職員にとって快適で安全な施設を整備し、提供することであるが、現在の体制は下記のとおりである。

① 本学における課外活動や学生活動の中心団体である学友会・総務委員会から施設・整備等に対する要望や計画が学生部に提出され、それが学内のキャンパス・アメニティにとって相応しいと認められた場合は、学生部から大学運営委員会へ議題として挙げられ、大学教授会で承認された後、実行されるシステムとなっている。

② 大学事務局総務部では、各部署から福利厚生及び管理関係の改善要求があった場合、それを取りまとめの上、大学運営委員会へ議題として挙げ、大学教授会での承認の後、予算措置を講じて実行するシステムとなっている。

【点検・評価】 経常の経費で対応できるものについては、必要度や緊急度に応じて対応することができている。しかし、多額の費用を要するような大規模な計画については、現在大学ではキャンパス施設の老朽化等への対応に高い優先順位がつけられているため、要望の実現に時間を要する場合が多い。キャンパスの中長期計画と連動させて、計画的な整備を進めていく必要がある。

【課題・方策】

2) 「学生のための生活の場」の整備

(B群:「学生のための生活の場」の整備状況)

【現状の説明】 学生サービスの向上を図り、大学生生活に対する学生の満足度を高める上で施設の充実是不可欠な要素の一つである。一般的な教育関連施設の他に、食堂、課外活動向けの施設、学生交流や憩いの場としてのスペース等、学生活動やさらには個としての学生に配慮したスペースの確保が重要である。このような観点から、本学では「学生のための生活の場」として下記の施設を整備している。

1号館地下学生ホール・食堂、1号館地下グリーンラウンジ(軽食堂)、1号館前広場、4号館1階学生ホール・食堂、エルピス館2階インターネットカフェ、エルピス館1階学生ホール・食堂、エルピス館2階エルピスホール、プレハブクラブハウス〔学生委員会活動室・クラブ部室〕、すみれ館〔クラブ部室〕、シャローム館〔学生相談室・保健室〕、ボールゲームパーク〔フットサルコート・バスケットコート〕、チャペルスクエア

【点検・評価】 2004年の礼拝・講堂棟の建設に伴い北キャンパスの再開発が行われ、学生食堂、インターネットカフェ、学生ホールなどが充実し、学生の大学における生活の場としての環境は大幅に改善された。屋外の施設としても、礼拝・講堂棟の前庭であるチャペルスク

エアや、全面に芝生を敷き詰めた大広場は、学生の憩いの場として大いに活用されている。また、一般学生が授業の空き時間にフットサルやバスケットボールに楽しむことのできる「ボールゲームパーク」は一般学生専用運動場として開放しており、学生の生活の場として有効であると言える。

【課題・方策】 社会経験の不足や、生きる目標や目的の乏しさなど、社会人として自立していくために多くの不安感を抱え持つ学生が、自主性、集団性、協調性、継続性などを体験できる場が課外活動であり、より多くの学生が課外活動に参加できるよう、大学として環境整備を行っていく必要がある。そのためにも、学生厚生棟としての学生会館（クラブハウス）の新設が優先すべき課題となっている。また、大学施設としては狭隘な体育館やグラウンドの改善が望まれているが、いずれもキャンパスの将来計画の中で、今後議論していく必要がある。

3) 大学周辺「環境」への配慮

(B群: 大学周辺の「環境」への配慮の状況)

【現状の説明】 本学キャンパスは緑に囲まれている。図書館棟の前には樹高7メートルのヒマラヤヤシがあり、毎年11月末には、近隣住民、教職員、学生、聖学院みどり幼稚園園児、日本キリスト教団緑聖教会が集うクリスマスツリー点火祭が行われ、キリスト教大学の特色を活かした行事として地域に定着している。見事に飾られた大学のクリスマスツリーは大学周辺の住民の目を大いに和ませている。また、大学正面の鴨川の土手には桜が植樹されており、毎年入学式頃にはキャンパスに彩を添え、秋のケヤキの紅葉と共に、大学周辺の環境を整えている。

学内ではゴミは分別収集されている。また、ヴェリタス祭（学園祭）ではエコリード容器（非木材パルプから作られた容器）を使用した環境に優しい取り組みを行うなど、本学学生や来学者に環境に関する意識高揚を行うなど、多様なかたちで大学や大学周辺の環境保全に対する取り組みが行われている。

【点検・評価】 本学では学生が住宅地や商店街の中を歩いて通学するため、これら近隣住民等と良好な協力関係を築くための対策を講じている。年に1回学友会（学生の自治団体）が学生ボランティアを組織して、近隣のゴミ拾い（大学周辺、大学から宮原駅・日進駅までの道のり）を行うなど、特に環境に配慮した活動を行っており、効果をあげている。また、大学と地域社会を結ぶ役割も担っている特定非営利法人（NPO）「コミュニティ活動センター」は、既に大学と近隣住民の諸組織とを結びつけ、「まちづくり協議会クローバー」を立ち上げたり、大学周辺の環境問題に取り組んだりしている。その他にも、まちづくり協議会の企画や、地域の清掃奉仕、さらには「ふれあいフェスタ in 宮原」などには多数の本学の学生・教職員が参加しており、大いに評価できる。

【課題・方策】 大学周辺の「環境」を整備するためには、周辺住民との連携の強化が今後も必要である。なお、現在大学内のゴミ分別は大まかに分けるだけで細かく分別収集してはならず、産業廃棄物として一括の処理を行っている。今後、大学全体としてさらに学生や教職員に対し環境問題への意識を強く持たせ、積極的に取り組んでいくための啓蒙活動を、機会を得ながら行っていく。

3 利用上の配慮

1) 施設・設備面における障害者への配慮

(A群:施設・設備面における障害者への配慮の状況)

【現状の説明】 校舎のバリアフリーに関しては、1992年度以降新設の校舎には車椅子も利用できるエレベータや身障者も利用できるトイレが設置されている。1991年以前に建築された校舎については、特にトイレをバリアフリーに対応するように順次改修している。学内の移動に関しても、全ての建物の入口に車椅子用のスロープが設置されており、車椅子での各建物へのアクセスが可能となっている。また、図書館棟にはこれまでエレベータの設備はなかったが、障害者への配慮として2004年度に外付でエレベータが設置された。このことにより、エレベータが必要な建物は1号館のみとなっている。また、2006年度には、不足していた視覚身障者用の点字ブロックが整備され、視覚障害者が全ての建物にアクセスができるように改善された。

【点検・評価】 人間福祉学科を設置する本学としては、特に障害者に配慮した施設・設備が強く要望されてきたことである。また、現実に障害を持つ学生や教職員が増えつつあることもあって、年次計画による継続した改修等によって、全ての建物の入口に車椅子のためのスロープが設置され、各建物への車椅子による移動が円滑になった。また、全ての学内の建物へ視覚障害者が安全に移動できるように点字ブロックが整備されたことは評価できる。

【課題・方策】 1号館は1968年に建設され、エレベータもなく老朽化が進んでいる。随時必要な改修を行ってはいるが、今後建て替える方向で検討が開始されている。また、2号館のエレベータは設置後20年以上を経過しているため、これについても数年後の入れ替え視野に入れた検討を行っている。ただし、障害者のためには施設の改善のみでは十分ではないため、学生ボランティアなどの人的な体制も整えていかねばならない。

2) 各施設の利用時間

(C群:各施設の利用時間に対する配慮の状況)

【現状の説明】 キャンパス内施設は原則として8時～21時30分までの使用が可能であり、課外活動